西日本、一大観光エリアに

ビジネスユースはもとより、時間をやりくりしやすい新幹線が直結することで、グッと便利さを増すのが食と観光。朝は桜島をながめつつコーヒーを飲み、おやつ時には安芸の宮島でもみじまんじゅうを食べ、夜は大阪でうどんすき、という少々せわしない旅でも思いついた時に実行できる。博多駅・大阪駅の改築をはじめ、各種商業施設の充実など受け入れ側の準備も怠りない。周辺の府県と合わせるなら、一大観光エリアの出現だ。

観光・食品でつながる

関西

大阪商工会議所は新ビジョン「千客万来都市OSAKA」を策定、メディカルポリス形成など五つの戦略プロジェクトで大阪への集客と投資促進を後押ししている。その一つが大阪市などの行政と協力する「旅游（りょゆう）都市化推進」プロジェクトだ。大阪城、水の都・食の都、買い物をキーワードにアジアや九州・中四国など国内外からの観光客を誘致する。

既存資産を活用して大阪城やその周辺を総合特区化して規制緩和、民間のアイデアや資金を呼び込んで整備し、観光デスティネーションとしての地位向上を図る。また、大川など市内を流れる川に着目したのが「川の駅」事業。八軒家浜船着き場に常設し、3月末には15カ所を川の駅として追加認定する予定で、水辺の憩いや文化で「水都」をPRする。

「京の着倒れ、大阪の食い倒れ」と言われるように食は大きな観光資産だ。大阪市は国際的なグルメ都市のネットワーク「デリス」に日本で唯一加盟する。食文化の振興を狙い、3月14日から8日間開催するのが「デリス・レストランウイーク@大阪2011」だ。市内の飲食店59店が参加、各店が2500円メニューを提供する。地元食材を生かしたメニューや「第1回食の都・大阪グランプリ」のプロ部門グランプリ作品などが楽しめる。デリス加盟という世界が認めた「食都」の魅力を打ち出す。

水・食の都、ショッピング、大阪城の3本柱で観光客を誘致する大阪

大阪

「大阪城」「水・食の都」「買い物」

観光資産武器に集客

梅田周辺のキタ、心斎橋・なんばのミナミ、天王寺と市内3大ターミナルエリアでは、2014年春までに百貨店のJR大阪三越伊勢丹の新規出店や大丸などの増床で29万平方㍍の商業面積増加が計画されている。日本一長いなどユニークな特徴を持つ近隣商店街との相乗効果など商業機能の多様性を「商都」のアピールに活用する方針だ。

□■□

一方、これを機会に九州の観光誘致手法を参考にしようというのが京都。京都商工会議所ら8会議所で構成する京都府商工会議所連合会は4月18日から2日間の日程で熊本を視察。熊本城や阿蘇山など観光資源や自然環境を活用した観光振興の現場を訪問し、熊本商工会議所らと意見を交換する。京都の観光振興策立案の参考にする考えだ。もちろん京都は国宝数で全国シェア21%（226件）を占める日本屈指の観光都市。神社仏閣や伝統文化など豊富な観光資産を誇る。自然環境などさらに充実した観光振興実施で国内外からの集客に拍車をかける。社寺や伝統の街並みを約2500基の露地あんどんでライトアップするイベント「京都東山花灯路2011」は、今年は九州新幹線全線開通と同じ3月12日から始まる。まずは誘導灯として人を誘うことになりそうだ。

京都

誘致手法を学ぶ

京都は東山花灯路の露地あんどんで集客を狙う

九州

新たな商業ゾーン誕生

駅ビル改築「JR博多シティ」開業

九州新幹線全線開通に伴って、福岡の商業地図が塗り変わりつつある。これまで天神地区が商業の中心であったが、博多駅ビルの改築により博多駅地区に新たな商業ゾーンが誕生するためだ。買い物客はもちろん、熊本や鹿児島、さらには関西方面からの観光客もこの地区を訪れることが予想される。どちらか一方が勝つというのではなく、回遊性が高まる方向に進めば、福岡の魅力が一層増すことになりそうだ。

九州新幹線の全線開通に合わせて博多駅に開業したのは「JR博多シティ」。九州初進出の百貨店・博多阪急や東急ハンズを含む、約230の専門店などが入居する。さらに日本最大規模のレストランゾーンや屋上庭園、イベントホールなどを備えており九州の新しいランドマークになる。

建物は地下3階、地上10階建てで、延べ床面積は約20万平方㍍。各店舗の営業面積は、博多阪急は約4万2000平方㍍、一方、東急ハンズの約5000平方㍍を含む専門店街が約5万7000平方㍍。専門店のうち84店は九州初出店。レストランは9階、10階の2フロアで、46店が出店する。このうち九州初出店は29店となる。

こうした動きと連動して、地元企業もチャンスととらえ、さまざまな取り組みがある。菓子メーカーである二鶴堂（福岡市東区）は、九州を強調するため、同社商品の「博多ぽてと」の原料を全量九州産のサツマイモに切り替えるほか、新幹線「さくら」をデザインした箱に入ったお菓子なども販売していく。

「いかしゅうまい」などを手がける萬坊（佐賀県唐津市）は、弁当の販売に乗り出す計画だ。いかしゅうまいや魚豆腐、いか飯などを入れた弁当の開発に取り組んでおり、九州新幹線全線開通を全国に発信するチャンスにしたいという。JR九州リテール（福岡市博多区）はおみやげゾーンを拡充する。

3日開業した「JR博多シティ」

博多地区との相乗効果に期待（福岡市の天神地区）

九州新幹線の全線開通PR

西日本の〝つながり〟期待

江崎グリコ　九州と関係「濃厚」

「当社と九州地方の関係は深い」―。江崎グリコの広報担当者がいみじくも語るように、同社の創業者・江崎利一氏の出身は九州の佐賀県。有明海の漁村の漁師から捨てていたカキの煮汁を譲り受け、健康によいグリコーゲン入りのキャラメルとして売り出したのは有名な話。「今でも年配社員の間では、九州出身者が多い。新幹線が直通運転になることで九州と関西の心理的距離がさらに小さくなる」と西日本地域の〝つながり効果〟に期待を寄せる。

そんな同社が、2月下旬に全国発売した新商品が「キスミント インスパイア＝写真」。ガム表面に風味パウダーを振りかけてあるため、口に入れた瞬間から濃厚な味わいが実感できるのがミソ。さらにガム本体にはソフトキャンディーを練り込んでおり、噛（か）むたびに香味成分が溶け出して濃厚な味わいが続く。味は鼻にツンとくる濃厚ミントと、甘酸っぱい刺激の濃厚グレープの2種類。容器はチャック付き薄型パウチと、大容量が入るエコパウチ、ボトル入りのスマートポッドの3種類があり、客の行き先やスタイルに応じて好みのタイプが選べる。

同時に、2003年から販売している「ウォータリングキスミント」ガムもリニューアル。各フレーバーを粒化したフレーバーチップを新配合しておいしさをアップ、新品種のフレーバーチェンジでは最初、噛んだときのピーチ味から次はミント味へと、2種類の変化が楽しめる。関西と九州を結ぶ西日本の旅の道中で噛めば、相乗効果で「楽しみも2倍に？」―。

「博多小径」を運営する。博多を中心に九州各県のおみやげを集めた店舗で、660平方㍍の広さで展開する。1カ月でテナントの入れ替えなども検討し、常に新しい店舗作りを目指すという。

□■□

博多駅地区のこうした取り組みに対し、天神地区でも変化がある。2010年3月に福岡パルコが開業したほか、百貨店の岩田屋三越が店舗をリニューアルするなどの動きがある。博多駅と天神は地下鉄でわずか3駅の距離。双方が刺激しあって魅力を引き出し合えば、一つの商業エリアとして発展することは可能だろう。

お菓子放浪記

◎…近年知名度が増した熊本の伝統菓子「いきなり団子」。生のサツマイモから蒸して作るだけに保存には冷凍や真空パックが必要だ。一方同じ熊本の代表的銘菓「誉の陣太鼓」は製造元のお菓子の香梅によると、独自の包装技術により60日間鮮度を保てるという。

鹿児島県　かるかん

熊本県　「誉の陣太鼓」

◎…鹿児島のかるかんも、元は郷土のお菓子。煎粉餅（いこもち）などと並び家庭でも作られていたそうだが、今ではかるかんが土産の代表的存在に。日もちを考え密閉包装をするメーカーは多いが、いずれも開封後は急ぎ食べなければならない。旅先で食べる？帰るまで待つ？

お菓子放浪記

四国　団子、タルト

饅頭、芋ケンピ…

◎…四国は南国の太陽を浴びた山の幸と波をゆりかごにした海の幸の宝庫。みかん、オリーブ、すだち、ゆず、クリ、カツオ、わかめ、瀬戸の小魚、ハマチなど枚挙にいとまがない。また、讃岐うどん、芋炊き、徳島ラーメン、皿鉢料理といった名物料理や、それらを引き立てるおいしい日本酒や焼酎も数多い。

お菓子も負けていない。夏目漱石の小説をヒントにした「坊ちゃん団子」、長崎伝来の「タルト」、塩田で使ったかまど形まんじゅう「名物かまど」、こんぴらの甘いお灸（きゅう）「灸まん」、四国独特のたぬき信仰が由来の「金長まんじゅう」、小麦粉を使った和菓子「ケンピ」の派生品「芋ケンピ」など個性豊かだ。ネットで買える時代だが、やはり訪ねて思い出といっしょに食べてほしい。

出展者募集中

SSDS 2011
SURFACE STRUCTURE DESIGN SHOW

進化する表面処理技術の総合展

表面改質展2011
SURFACE STRUCTURE DESIGN SHOW 2011

高機能化、ハイブリッド化
環境対応へアクセル

会　期　2011年5月25日(水)～27日(金)
会　場　インテックス大阪（大阪市 住之江区）
併催行事　基調講演会、関連セミナー
出展者によるワークショップなど
同時開催　微細・精密加工技術展2011

●主　催／日刊工業新聞社
●後　援／(社)日本鉄鋼協会、(社)日本熱処理技術協会、日本金属熱処理工業会、
(社)日本溶射学会、日本溶射工業会、(社)日本表面処理機材工業会
(財)近畿高エネルギー加工技術研究所

問い合わせ先　「表面改質展(SSDS)」事務局（日刊工業新聞社 大阪支社）
〒540-0031 大阪市中央区北浜東2−16
TEL.06-6946-3384　FAX.06-6946-3389　e-mail ssds@media.nikkan.co.jp
ホームページ　http://www.nikkan.co.jp/eve/ssds/

ラジカル窒化現象

2011. 3.11